ごあいさつ

久留米市合川町周辺には、古代の筑後国を統括した役所「筑後国府」跡が広がっています。1961（昭和47）年、全国に先駆けて発掘調査が行われてから、今年で48年目を迎えます。これまでの調査によって、さまざまな発見がありました。特に、国府の中心地「政庁」が３回遷り変わっていたことや、役人の長官である「国司」の館などが発見されたことなどは、その代表的なものです。その成果は、地元の皆様のご協力により、国指定史跡というかたちで後世に伝え、残されていくことになりました。

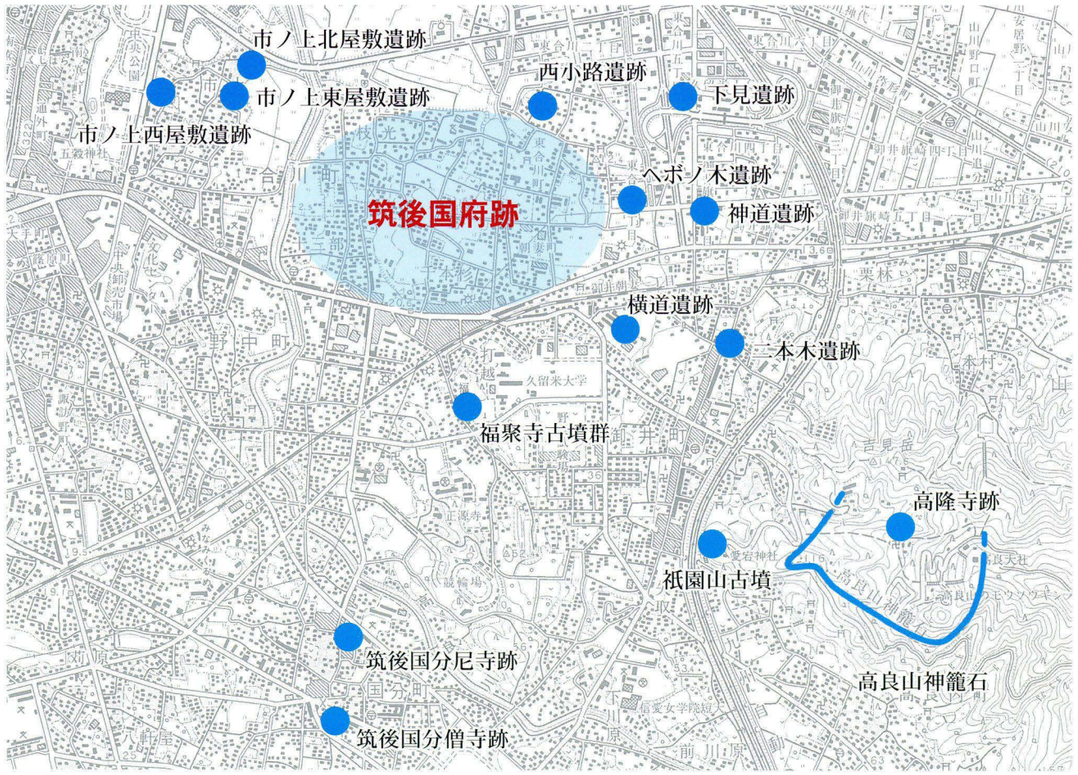
また、平成18年からは、これまでの調査成果を歴史教育に還元できるように、資料の再整理も実施しています。この再整理では、これまで見落とされていた事実が再発見され、筑後国府に新たな評価が加わりました。ここでは、その再整理の成果を中心に、遺物や写真パネルの展示を行います。

この催しを通じて、合川校区の皆様が、地元の歴史に対し一層興味を深められますとともに、今後の文化財保護行政へのご理解を賜ることができれば幸いに存じます。

平成21年11月

久留米市教育委員会
教育長　堤　正　則

筑後国府跡と周辺の遺跡たち



筑後国府跡とは？

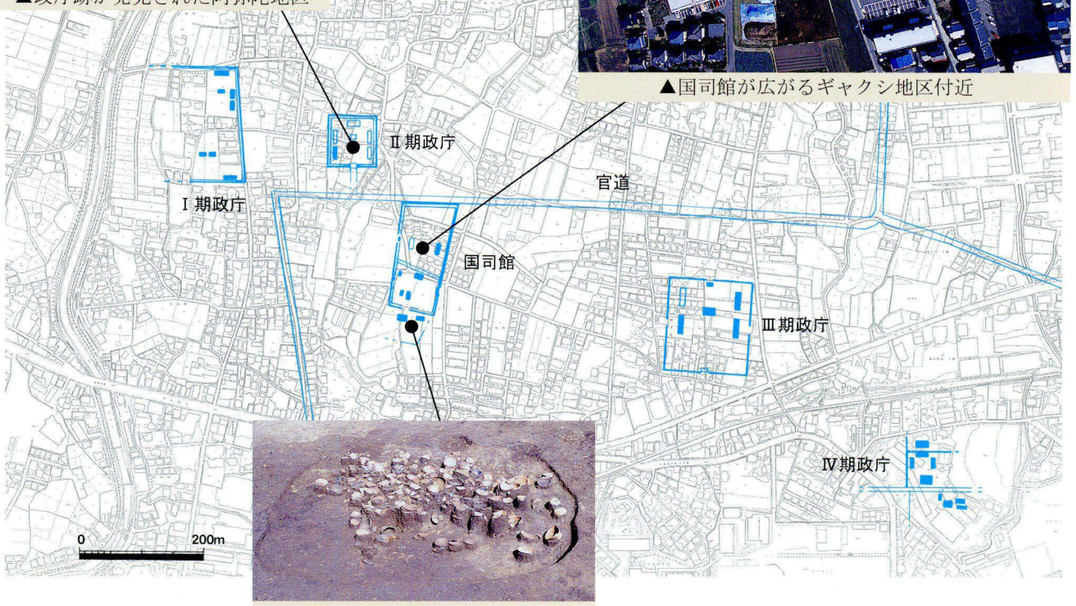
今から1,300年ほど前の７世紀末、天皇を中心とする中央集権国家が成立し、全国は60あまりの「国」と呼ばれる行政単位に分けられました。「国」が成立すると、各「国」を統括する役所が設置されました。それが「国府」です。現在の福岡県南西部地域には筑後国が成立し、筑後国を治める筑後国府は合川町一帯に広がっていました。

国府には、政治を行う「政庁」という中心施設をはじめ、その周辺にはさまざまな官公庁、役人の住まい、工房などがありました。当時、「国」は大・上・中・下の４等級に分けられていて、上国にあたる筑後国の国府は、約400人以上の人々によって運営されていたようです。

筑後国府跡の発掘調査は、昭和36（1961）年、国府政庁推定地としては全国初となる調査が実施されました。その後、昭和47（1972）年からは久留米市が調査を引き継ぎ、48年の歳月が過ぎました。長年の調査では、多くの成果を得ることができています。特に、政庁が３回遷り変わっていたことや、国府に勤務した役人の長官である「国司」の住まい「国司館」が発見されたこと、国府成立以前の役所跡が発見されたことなどは、全国にも例がない貴重なものです。今回は、９世紀の「国司館」における発掘調査と資料再整理の成果を中心にご紹介したいと思います。

▲政庁跡が発見された阿弥陀地区

▲国司館が広がるギャクシ地区付近



▲国司館付近で遺物が出土した様子

▲筑後国府跡の主要な施設の位置図（1／5,000）